

平成29年7月31日

豊田市議会議長 三 江 弘 海 様

産業建設委員会
委員長 木本 文也



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

- 1 日 程 平成29年7月25日(火)～27日(木)
- 2 派遣先及び内容
25日(火)・・・埼玉県熊谷市／
中心市街地の活力・にぎわい創出プロジェクト
26日(水)・・・千葉県神崎町／
道の駅 こうざき
27日(木)・・・千葉県佐倉市／
企業支援ワンストップサポートデスク
- 3 派遣委員
委員長 木本 文也
副委員長 浅井 保孝
委員 大村 義則 日惠野雅俊 鈴木 章
安藤 康弘 榎屋小百合 塩谷 雅樹
宮本 剛志
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行／鈴木 祥宏、河橋 敦子

視察報告書【1】

委員会名	産業建設委員会	委員名	木本 文也
視察日時	平成29年7月25日(火) 午後2時00分～午後4時00分		
視察先・概要	埼玉県熊谷市 人口：199,727人 (H29.7.1現在) 面積：159.82km ²		
視察内容	【 「中心市街地の活力・にぎわい創出」プロジェクト 】		
選定理由	熊谷市は、近隣市への大規模ショッピングモールの出店により、中心市街地の歩行者数の減少や空き店舗数の増加など、活力とにぎわい喪失の問題に直面しており、その対策として、中心市街地活性化基本計画を策定した。計画に基づき、まちなかの活性化・魅力向上に向けた様々な取組を進めており、この取組は、今後の本市において参考になると判断したため。		
豊田市の現状と課題	周辺市町村における大型商業施設の整備等により本市の商業環境は一層厳しさを増している。K i T A R A開業を契機として、商業施設等と連携し、公共施設や公共空間など既存ストックを最大限活用した官民連携のにぎわいづくりを着実に進める必要がある。また、2019年のラグビーワールドカップ開催等の国際的なイベントが控えており、豊田市の玄関口である豊田市駅周辺の中心市街地賑わいの創出と来訪者の回遊性の向上など、今後の都心づくりの推進のため、先進的な取組を調査、研究する必要がある。		
視察概要	<p>○熊谷市議会 黒澤副議長 あいさつ ○産業振興部 茂木副参事 説明</p> <p>1 熊谷市の現状 大型商業施設や各通りの商店街の立地により、商業集積が形成されているが、空き地や空き店舗の増加、年間商品販売額や事業所数の減少など、中心市街地を取り巻く環境は近年、厳しさを増している。</p> <p>2 中心市街地活性化基本方針（理念） 「つながり」と「おもてなし」で築く、広域拠点都市くまがや</p> <p>3 基本方針と主要施策 (1) 楽しく回遊できる都市環境の形成と生活環境としての魅力アップ ア 東西の2つの商業核の間に中心核となる「産業・交流核」の構築 イ 緑と憩いのある移動環境整備 ウ 中心市街地へのアクセスや中心市街地の移動のための交通の利便性の向上 (2) 広域来訪及び地域生活を支える商業環境の形成 ア まちなかの快適な生活を支える生活サポート機能の充実 イ 商店街や大型店、団体等の連携強化による一体的な取</p>		

	<p>組推進</p> <p>ウ 来街者等に対するおもてなしの向上</p> <p>(3) 広域拠点都市くまがやの中核機能を担うための業務環境の形成</p> <p>ア 広域拠点都市のポテンシャルを活かしたビジネスゾーンの拡大</p> <p>イ 都市福利施設等の充実による安全安心で利便性が高い居住環境づくり</p>
評価とその理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊田市は、中心市街地活性化といいながら文化ゾーンとの連携（ハード・ソフト）が十分でない。熊谷市は中心市街地エリアをゾーン化し、取組課題を明確にし、施策展開をしており評価できる。
本市に反映できること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊田市も今年の秋にK i T A R Aがオープンし、中心市街地活性化の最後の切り口になると思われる。今後の展開としてエリアをゾーン化して、取組課題を明確にすることは有効である。 ・ 駅前商業ビルティアラ 21 のシネコンが集客に成功している点について、豊田市においてもK i T A R Aのオープニングを控えており参考になる。 ・ 熊谷市の中心市街地活性化の主要施策で歴史文化ゾーンがあり、現在豊田市で検討されている新博物館が設置される文化ゾーンについても「中心市街地のにぎわい」というキーワードの視点で考えていく必要がある。 ・ おもてなしの精神として自然環境をテーマとして挙げていた。豊田市においてもラグビーワールドカップ2019の取組で矢作川の河川敷エリアをファンゾーンの一つとして取り組む予定があるが、ラグビーワールドカップ2019終了後もこのファンゾーンを中心市街地の活性化に含めて考えていきたい。
その他 (意見・課題など)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熊谷市は、駅前での回遊、集客などさまざまな努力を重ねていることについて素晴らしいが、なかなか成果がでていない。 ・ 中心市街地活性化の視察で行ったのであれば、シネコン、駅ビル等の現地視察を行ったほうがよかったのでは



視察報告書【2】

委員会名	産業建設委員会	委員名	木本 文也
視察日時	平成29年7月26日（水） 午後0時30分 ～ 午後1時30分		
視察先・概要	千葉県神崎町 人口：6,230人（H29.6.1現在） 面積：19.9km ²		
視察内容	【 道の駅 発酵の里こうざき 】		
選定理由	<p>神崎町は古くから米作に適した土と良質な水、利根川の水運に恵まれ、酒、味噌、醤油などの発酵文化があり、道の駅「発酵の里こうざき」は、「発酵」をテーマとして平成27年4月に作られた道の駅であり、重点道の駅の一つである。道の駅は、地元の農作物や土産物をメインに販売する形が多いが、発酵の里こうざきは、全国各地の発酵食品を紹介する発酵市場を設けるなど、他の道の駅にはない特色を打ち出した施設となっている。この取組は、今後の本市において参考になると判断したため。</p>		
豊田市の現状と課題	<p>本市が観光を主要産業の一つとして発展させるためには、国内外からこれまでにない多くの観光客が訪れ、地域経済の好循環を生み出す必要がある。そのため、これまで育んできた様々な観光資源を活用し、事業者等による観光客に向けた新規事業の展開を促し、観光産業の活発化を図ることが必要なため、先進的な自治体の取組を調査・研究する必要がある。</p>		
視察概要	<p>○神崎町議会 高橋議長 あいさつ ○神崎町長 石橋町長 あいさつ ○まちづくり課 石橋係長 説明</p> <p>1 設立の背景と概要 平成21年の酒蔵まつりを契機に「発酵」をテーマにまちづくりが始まった。平成25年には全国発酵食品サミットを開催、その後、神崎町の「発酵の里」としての知名度は上がってきたが、イベント開催時以外も常に人が集まる環境づくりが課題であった。「発酵の里」としての観光の拠点となるような施設が必要となり、平成27年に「発酵」をテーマとした道の駅としてオープン。 重点道の駅に指定されている。建物は神崎町が設置し、運営は第3セクターに指定管理している。</p> <p>2 特徴 「発酵」をテーマにした全国で初の道の駅で、発酵市場では地産商品から全国各地の発酵食品を取りそろえている</p> <p>3 役割 (1) 地域創生の拠点 (2) 町内農商工業者の育成強化 (3) 防災の拠点 (4) 世界に向けた発酵文化の発信拠点</p>		

	<p>4 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏央道に隣接し、成田空港、都心との交通アクセスの向上を有効利用し、年間来場者数が 60 万人ある。
<p>評価とその理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国に 1000 を超える道の駅がある中で、発酵をテーマに道の駅をオープンし、地元の製品だけでなく、全国の有名な商品を集めて販売しており、年間 60 万人が来館する企画力は評価できる。 ・圏央道に隣接している地理を有効に利用し、道の駅内にコンビニを併設するなど柔軟な発想が評価できる。 ・地元農商工業者が道の駅へ製品を出品しており、地元産業との相乗効果もでている。 ・地理的立地条件に恵まれ、国の補助金を有効に活用して事業を行い、成功している事例だと感じた。
<p>本市に 反映できること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田市内は重点道の駅として、どんぐりの里がある。しかし、広域な本市として、もう 1 箇所の道の駅の必要性を感じている。道の駅こうぎきの取組は今後、本市が取り組んでいく「道の駅」の参考になった。 ・今年度オープンした発酵教室の体験スペースはまだ本格的には稼働していないが、効果的な取組として期待できる。豊田市においても地元の名産品を活かした料理等の体験スペースを設けることは、道の駅を地域創生の拠点施設として参考とすべきである。
<p>その他 (意見・課題など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅立地の条件として、隣接する道路の交通量が必須条件であり、産直農産物以外にアピールできる特徴がないと他の道の駅との差別化が難しく、年間を通した安定的な集客が難しくなる。 ・今回の道の駅の整備に要した費用がおおむね 10 億円に対し、神崎町の負担は 1 億円か 2 億円程度である。職員に経営感覚、専門性があり、これから豊田市の観光を考えていくうえで、豊田市の職員にも経営感覚や専門性がより必要になってくる。3 年程度で異動をするようでは経営感覚や専門性は培われぬ。専門的な職員を育成し、効率的に補助金を獲得する努力を神崎町のように行っていくべきではないか。



視察報告書【3】

委員会名	産業建設委員会	委員名	木本 文也
視察日時	平成29年7月27日(木) 午前9時30分～午前11時00分		
視察先・概要	千葉県佐倉市 人口：176,518人 (H29.3.31現在) 面積：103.69km ²		
視察内容	【 企業支援ワンストップサポートデスク 】		
選定理由	<p>佐倉市は、企業支援ワンストップサポートデスクにより、市内への進出に関する相談から、進出後のアフターフォローに至るまで、企業からの問い合わせや要望をワンストップで受け付けている。</p> <p>企業支援ワンストップサポートデスクが窓口になることで、企業が個々の部局とのやり取りをする手間を省き、迅速に手続が進められる。この体制により佐倉市では、手厚く、迅速できめ細やかな企業支援が可能となっており、この取組は、今後の本市において参考になると判断したため。</p>		
豊田市の現状と課題	<p>本市の「ものづくり中小企業」が持続的に発展していくためには、中小企業が新たなチャレンジに取り組もうとする機運の醸成を図るとともに、その取組を支援する施策を効果的に展開することが必要であり、先進的な自治体の取組を調査・研究する必要がある。</p>		
視察概要	<p>○佐倉市議会 櫻井議長 あいさつ ○産業振興課 塚田主任主事 説明</p> <p>1 企業立地条件 (1) 抜群の交通アクセスとロケーション (2) 快適な住環境 豊かで美しい自然・充実した商業施設、医療機関、文化施設</p> <p>2 工業団地進出企業 (1) 佐倉第一、第二、熊野堂工業団地 フジクラ、デンカポリマー、古川ユニックなど 連絡協議会 66社 (2) 佐倉第三工業団地 TOTOバスクリエイト、京セラ、太平洋セメントなど 連絡協議会 40社</p> <p>3 企業誘致助成金 (1) 立地促進助成金 (2) 緑化推進奨励金 (3) 賃貸型立地促進助成金 (4) 賃貸型情報機器助成金 (5) 地元雇用促進奨励金</p> <p>4 ワンストップサービス体制によるサポート ・進出に関する相談、開発に伴う各種行政手続き、アフターフ</p>		

	<p>オロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズに応じた立地情報の提供、資金繰りや人材確保、立地・業務環境整備の支援など、きめ細かく対応
評価とその理由	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な企業支援策を導入し、また、ワンストップ体制を構築し、企業が参入しやすい環境整備は評価できる ・企業誘致助成金が5種類あり、充実した取組をしている。特に平成23年度からは市内既存企業に対しても助成金が活用され、支援体制が整っていると感じた。 ・中小企業の誘致のために交通アクセスと税制度の優遇、労働者の住環境の整備などを複合的にサポートしていることが特徴であった。その結果、企業進出や人口増加により税収が豊かになり最終的には住民サービスの向上につながる効果があった。
本市に反映できること	<ul style="list-style-type: none"> ・佐倉市の交通アクセスは、鉄道、道路など利用しやすい環境である。豊田市も高速道路、南北バイパスなど道路面では他市にひけをとらない。これらの道路網をフルに活用した企業用地は重要である。 ・豊田市でも新たな立地推進条例が今後検討されているが、企業側の意向調査をしっかりと把握することが重要であると感じた。
その他 (意見・課題など)	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい企業が立地することによってプラスの面もあるが、渋滞など地域に及ぼす影響も大きい。企業誘致をする場合は地域の負担も考えて行うべきである。

